

事業別外部評価結果及び所見

事業No.	事業名	担当課	評価	主な評価理由、意見等			担当課所見
				1	2	3	
6	学校における人権教育の推進	人権教育推進室	3.33	学校の要望に沿って講師を選定することは重要かと思うが、当事者といっても様々で、中には人権侵害に加担している当事者も存在しているので、講師派遣に関するネットワークも構築していった欲しい。	職業選択(大人になったらなりたいものなどキャリア教育に関わるもの)や理数系進路選択に関わるものは、性別による大きな偏りがあるという問題があり、これらについては、教員は、社会的な男女格差の実状を理解し、「男女を区別」した上で、適切な配慮を行う必要があることを研修等で学ぶことが重要であると考え。	取り組みにおいて、「人権教育」の中で男女共同参画の視点ははじめや差別などに比べて重視されていないものも見られ、リーフレットの作成や講師派遣といった単発のものではなく、継続的な子どもへの働きかけも期待したい。	・1 講師選定については、「子どもたちへの教育」とともに、「その教育を担う教職員への推進・啓発(研修)」にふさわしい人材を調査し、リストアップしている。また、各学校で講演会を開催した際は、内容について報告を受けている。今後も継続的に選定の精査も含めながら適切な講師を紹介できるように取り組んでいく。 ・2・3 教員が人権感覚を磨き、日頃から男女参画の視点を意識して、子どもたちを指導できるようにすることが重要であることから、人権教育研修会等の機会を通じて教職員へ推進・啓発するとともに、各教科等で取り組めるよう、各課と連携しながら推進していく。
39	キャリア教育の推進	指導1課	3.25	未来を見据えて物事を考える習慣をつけていかなければ、キャリアの構築も難しくなる。子供たちにとってキャリアは未来であることから、時代を予測するような視点を持つ意識は重要だと感じる。	仕事に就くにあたり、確実に労働にかかる一定の知識を得られる機会は、本来は中学校卒業時から仕事につけることを考えると、中学校という場に置かれている必要があると考える。仕事に就くということは、雇用に限られず、広くキャリア教育を行うことは必要かと思われるが、雇用を選ぶのか、若しくはほかの働き方を選ぶのかも含めて、雇用されることがどのようなことかということについて、公民という知識ではなく、自身のキャリア形成を行うにあたって、理解することが必要と思われる。また、自由に子供たちが職業を選択する、というキャリア形成においても、ジェンダー・バイアスがかかりやすいものであるため、自身の希望を問い直して職業の選択を行うという視点も重要であると考え。		・キャリア教育については、特別活動の学級活動を要しつつ、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としてのカウンセリング等の機会を生かしながら、学校の教育活動全体を通じて実施する。 ・中学校の公民科における人権や経済の学習で、使用者と労働者、経営者など様々な立場の視点をもって学ぶことに留まることなく、教員に研修を通じてキャリア・カウンセリングの重要性を周知することと共に、男女共同参画やジェンダー・バイアスについて理解を深める機会を設けていくことが必要である。
40	さいたま市中学生職場体験事業「未来(みらくる)ワーク体験」	生涯学習振興課	2.83	子どもたちの希望の尊重と共に、社会構造の問題(ジェンダー・バイアスが存在することなど)を学ぶための研修会をしていただきたい。	職場体験の協力企業も限られている中で、苦労があるかと思うが、生徒にとって、将来のキャリア等への考えに大きな影響を与え、重要な事業だと考える。また、生徒を受け入れた企業も男女共同参画などを考える良い機会になることと思う。	職業体験を行う先を調整するのは大変なことと思われるが、なかなか若い世代を採用しにくい、若い人材を得たいと考えている企業との連携を、ハローワークを通じて考えられないものか。	受入れ事業所の負担にならない範囲で、男女共同参画の視点を取り入れた職業体験が実施できるよう、事前配布する手引き等を活用し、周知について検討させていただく。 また、受入れ事業所拡大のため、ハローワークと連携についても併せて、検討させていただく。

事業No.	事業名	担当課	評価	主な評価理由、意見等			担当課所見
				1	2	3	
41	親の学習、家庭教育学級等の実施	生涯学習総合センター・公民館	3.00	「パパ」「ママ」という表現を用いず、広く参加者を募るのは多様化する家族が当然になっている今日、重要だと思うが、積極的に男性に働きかけしないと、ジェンダー・バイアスのあるこの社会においては、男性が子育てしやすい環境は作れないと思う。男女問わず子育てに参加できるよう、多様なニーズに応えられるようなプログラムを設計していただきたい。	男性の参加推進に当たっては、平日の参加が難しいため、参加しやすい休日に参加を促すイベントを行うことは理解できるが、男性の参加の仕方についても、投げかけができるとさらに一歩進むのではないかと思われる。昨今の年次有給休暇取得促進にあたって、この参加促進とコラボレーションしたうえで、平日の参加促進を進めるなど、雇用関係部署との連携を考えたもよいのではないか。これにより親の学習の仕方、働き方などに変化を与えられるようになることを期待したい。		男女を問わず、広く多様なニーズに応えられる講座づくりに努めてまいります。また、講座実施にあたっての他部署や民間企業との連携は既に行っているところですが、今後、参加促進に関しての関係部署との連携についても研究してまいります。
42	家庭教育、子育てセミナー等の開催	生涯学習振興課	2.92	男性の子育てセミナーの参加者は、ジェンダー格差の是正のためにもデータ化した方がよいと考える。	保護者を対象とした家庭教育に関する講座の参加者について、入学説明会や就学時健診時に開催するものについては母親の参加がほとんどになってしまうと思うため、土曜日の参観日の際に開催するのも良いのではないか。	令和元年度と比較して、令和2年度、3年度はコロナ禍の状況の中で講座を実施した学校が少なくなったことはやむを得ないと思うが、令和3年度については、コロナ禍に対応する工夫をし、講座を実施する学校がもう少しあっても良かったのではないかと思う。	子育て講座は、就学時健康診断、新入学保護者説明会、PTA行事、学校保健委員会など、保護者が集まる機会を利用し、学校が主体となって開催している。過去の実施報告によると男性の参加者も多く、土曜日に開催している学校もあるのが実態である。また、令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインで開催した学校もある。教育委員会としては、引き続き学校と連携し、家庭の教育力を高められるような施策を推進してまいります。